

## 76 マタイは、立ち上がった人

### 《聖マタイの召命》の真実

2013・2024

真鍋友範

#### 1 聖書：マタイ伝9-9に書かれていること

少し要約すると

イエスは収税所で座っているマタイをご覧になった。  
イエスはマタイに従うように言った。  
マタイは立ち上がり、イエスに従った。

\*【どこにも、マタイが椅子から立ち上がったとは書いていない。これ重要です。】

\*座ったままの人物がマタイであるという先入観に囚われている人は多い。

確かに、イエスがマタイを見たときには、マタイは座っていました。

しかし、呼び出された瞬間も、マタイは連続して座っていたのでしょうか。

【聖書マタイ伝9-9には、決してマタイは椅子から立ち上がった、とは書いていない。ただ、【立ち上がった】、とある】

逆に、【座っている人物は、椅子から立ち上がりますから、聖書に忠実な召命対象ではない、と、私は感じます。】

要するに、【この場面のマタイの行動を、椅子から立ち上がったと、認識した絵画内容にすると、それは、聖書の記述内容を逸脱した判断になるはず】です。

何故なら、マタイ伝9-9のどの部分にも【座っていたマタイは、(イエスが最初にマタイを見かけた瞬間から、継続して椅子に座り続け、)最後に椅子から立ち上がってイエスに従った】とは書かれていないのです。

ただ単に【立ち上がってイエスに従ったのです。】

そうであるにも関わらず、仮に、カラヴァッジョが、【椅子に座っているマタイが立ち上がる場面】を描いたとすれば、それはカラヴァッジョが聖書の内容をよく知らないことになります。聖書に忠実に再現しています。

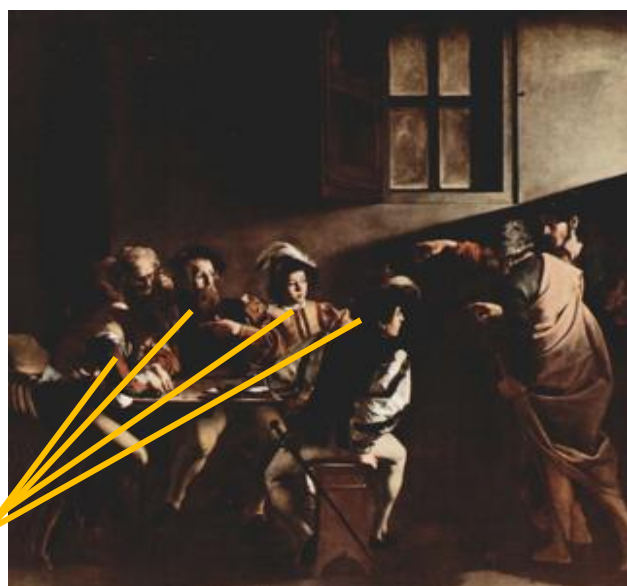
ルネサンスの画家たちは、師匠の元、工房で画家修行をした筈です。その内容には、必ず絵の具の配合や絵画の描画技術の他、当時の注文内容から、必ずしっかり聖書の文言を勉強をしていたことでしょう。

仮にも、聖書の内容に従わない内容の絵画を、カラヴァッジョが教会に提出したならば、即座に受取拒否の憂き目に会う時代であったことは間違いありません。

実際、この《聖マタイの召命》は、400年前のローマ・カトリック教会に問題なく受け入れられています。

《聖マタイの召命》では、これまで、誰がマタイなのか、という謎があるとよく誤解されますが、私の判定では、【謎など一切無く、カラヴァッジョは、机に寄りかかった姿勢から立ち上がり、イエスに従う眼鏡の収税人のストーリーを描いているのです。】（\*眼鏡の聖マタイ・net 論文・2013）

もう一度作品に戻りましょう。



\*従って、4名の【椅子に座っている人物】は、全員マタイ候補から除外できます。何故なら、【椅子に座った人物と特定する】なら、聖書マタイ伝9

-9の記述内容を、勝手に脚色し、聖書の記述から外れているからです。

【座っている人物たちは、どの人物も聖書にマタイ伝9-9の記述には適合しません。

中央のヒゲ男も、左端のうつむいた金銭計算の職務に励んでいる若い収税人も、見ての通り、【座っていますから、聖書の記述に適応しません。】

つまり、【聖書に記述された、(椅子から)という言葉に飾られず、シンプルに『(身体を起こし、立ち上がった人物』その人は、【眼鏡の収税人だけ】なのです。】

## 2 『立ち上がる』とは

さて、英文聖書で「立ち上がる」は、【get up や arise】が当てはまるようですが、これらの言葉は、必ずしも椅子から立ち上がる意味だけに限定される言葉では無く、【体を上方に移動させる】・【to move upward】という意味も含んでいるようです。もちろんイタリア語でも同様です。

結論として、聖書マタイ伝において、イエスに呼ばれた眼鏡の収税人マタイは、【体を上方に移動させて】・【to move upward】立ち上がらなければなりません。

【カラヴァッジョこそ、現代の誤った解釈の大多数の人たちよりも、1600年の段階で、真に聖書マタイ伝9-9の内容を理解していた人物ということになります。】

非キリスト教信者の私が言うのも変ですが、髭の男がマタイだとするローマ・カトリック教会こそ、17世紀美術史家ベッローリの誤った解釈や、現地サン・ルイージ・デイ・フランチェージ聖堂にて解説される【聖書マタイ伝9-9の記述との矛盾】に対し、最初に気付くべきなのではないでしょうか。